

ケルン・メッセでIMB2006が開催されます。

2006年5月10日から13日までの4日間、ドイツ、ケルン市のケルン・メッセにてIMB2006(World Fair for Apparel Production Technology and Textile Processing)が開催されます。

JUKIはケルン・メッセホールNO.6のブースに57機種の最新鋭工業用ミシンを展示。新商品は23機種と出展機の40%を占めています。

展示コーナーはJUKIのWebサイトと連携した「JUKIマネジementサポートコーナー」をはじめ、シャツ・ブラウス用、ニット用、ファンデーション用、紳士・婦人アウター用、ジーンズ用および厚物用の各ミシンコーナーに分かれています。

<主な出展機種>

AMS-210E Series 入力機能付き電子サイクルマシン(写真1)

予め入力された様々な形状パターンを、布地セット後スタートから糸切りまで全て自動的に実行する入力機能を備えた電子サイクルマシン。

電子サイクルマシンとしては世界最高の縫い速度2,700rpmを実現。

APW-895 Series 本縫自動玉縁縫機

頭部駆動は応答性に優れたダイレクトドライブ方式を採用。頭部回転数はMAX3,000rpmにスピードアップしました。

LH-4100 Series ダイレクトドライブ高速2本針本縫ミシン(写真2)

ハイロングアーム、ダイレクトドライブ、オイルパンプレスの2本針本縫ミシン。片針切換機構、糸切機構は信頼性に優れた新しい機構を採用しました。また最高縫速度は4,000rpm、左右独立の糸調子器、簡単な調整により下送り/針送り切換が可能。

MF-7700 Series 高速フラットベッド飾り縫ミシン

インナーウェアの柔らかい縫い目にもアウターウェアの高品位で締まった硬い縫い目にも対応出来る、縫いにこだわった飾り縫ミシン。シリンドラタイプのMF-7800 Seriesも同時に展示。



写真1 AMS-210E Series 入力機能付き電子サイクルマシン

PLC-1700 Series ポストベット本縫総合送り水平大釜ミシン(写真3)

大物縫製に必要とされる“送り力”を大幅に強化し、縫いムラのない安定した縫製を実現。



写真2 LH-4100 Series ダイレクトドライブ高速2本針本縫ミシン



写真3 PLC-1700 Series ポストベット本縫総合送り水平大釜ミシン

第188回 アパレル生産工場のマネジメントセミナー (旧管理者養成コース)

“国内の空洞化”“海外進出”など、縫製業界は大きく変化しています。当セミナーでは“生産管理”を中心として、物作りの現場から管理者の役割まで、アパレル生産工場におけるマネジメントを学んでいきます。“国内外の動向”“海外アパレル生産”等の最新情報を取り入れ「わかりやすさ」をモットーに進めていきます。

期日 2006年7月25日(火)～7月28日(金)

<3泊4日 合宿形式>

時間 7月25日 13:00～18:00

7月26日、27日 08:30～18:00

7月28日 08:30～13:00

定員 30名

参加料 1名 73,500円(税込)

《テキスト及び資料・宿泊・食事含む》

申込方法 1 電話にて申込み状況のご確認をお願い致します。

2 申込書にご記入の上、下記宛てまでFAXもしくは郵送にてお申込みください。

3 WEBにて、お申し込みの方は、下記のアドレスにアクセスし必要事項を記入の上、お申し込みください。

URL: http://www.juki.co.jp/industrial_j/seminar_j/manage_j/entry.html

支払い方法 請求書が届き次第、指定銀行の口座にお振り込みください。

お願い: 参加予定の方がご都合の悪い場合は、代理の方がご出席ください。

講師

JUKI株式会社 縫製研究所 縫製工場コンサルタント

会場

JUKI大田原株式会社 那須研修センター
栃木県大田原市北金丸1863

<最寄駅> 東北新幹線 那須塩原駅
注)受講者には後日、詳細地図を送付致します。

申込先

〒182-8655 東京都調布市国領町8-2-1

電話03-3480-8500 Fax 03-3480-7650

JUKI株式会社 縫製研究所

担当: マネジメントセミナー担当 西宮

*本研修は、キャリア形成促進助成金対象カリキュラムです。連絡先は下記になります。

独立行政法人 雇用・能力開発機構 (県ごとに連絡先が異なります。)

URL: <http://www.ehdo.go.jp/>

e-mail: goiken@ehdo.go.jp



インド

中国ライバルの最右翼

インドで食事をしているときのこと。現地スタッフがインドの教育システムについて会話をしていた。一人は南部のパンガロール出身、もう一人は北部のコルカタ出身。なんでも「義務教育は何歳まで」だの「中学を卒業したら2年間高校に行ったら大学に入る」とかで議論になっている。……ちょっと待て、2人とも同じインドの人間じゃないのか？

しかし、このようなことはインドのような大国(中国しかり)ではよくあることだ。州ごとに教育システムが少しずつ違うのだ。もちろん北と南では言葉が通じないから、英語でコミュニケーションを取る。公用語は一応ヒンドゥー語であるが、他に州の憲法で公認されている言語は17あるという。日本人には信じ難いことも多しれない。

インドの繊維生産量は世界の約10%を占めており、中国に次ぐ世界第2位の繊維大国である。特に綿花は主要な農産物であり、繊維産業は主要な産業のひとつなのだが、課題も多い。とらのは、綿花の生産量は年間約280万トンで世界の14%を占め、中国・アメリカに次ぎ第3位でありながら、繊維産業の規模は中国の半分しかないのだ。



コスト競争力の面では、インドは中国に対し強みがあるが、圧倒的に有利であるとは言えないようだ。労務費もインドは中国の内陸部並みの約100ドル/月であるが、労働時間を考慮した労務単価では中国のほうが安い。

インドはいろいろな面で中国と比較される。人口も、あと何年後には中国を抜いて、世界1位になると言われているが、実際にインド人は中国のことを気にしている。

私が訪印したときも「中国のYシャツの生産性はどのくらいか?」「インドの縫うスピードは中国人より速いか?」「中国より品質はいいだろう」と質問してくる。「スピードは遅い!……」と思っても、口には出せない。

中国に対しては分が悪い状況にはあるが、一つインドの優れた点がある。それは、インド人は世界に目が向いているということだ。常に、中国やアメリカ、近隣諸国などが、意識にあるのだ。人口もそうなるように、縫製産業だけではなく、あらゆる産業でインドが世界のトップ争いをする日は近いのではないだろうか?

(臺秀一)

編集後記

中小繊維製造事業者自立事業も4年となり、国内縫製企業の自立への実際例を取り上げてみました。特集に登場していただいたアルデックス、オオタニット、加茂繊維の3社と、JUKI PLAZAのバンドールそれぞれの取り組みですが、成熟市場の中で製造だけを行っていた企業が自社で商品を企画し、それを消費者に直接売る、または小売に卸すことは「工」と全く異なった「商」の機能を持たなければならず、そこには大きなハードルがあります。(知)



j m
JUKI Magazine

JUKIマガジン 2006年 VOL227
<http://www.juki.co.jp/jm/>

<通算227号> 2006年4月30日発行
発行：JUKI株式会社

http://www.juki.co.jp
企画：JUKIマガジン編集室

〒182-8655
東京都調布市国領町8-2-1
TEL.(03)3480-8500
FAX.(03)3480-7650

編集：生産技術情報センター
デザイン：志岐デザイン事務所

JUKI販売株式会社
各拠点/カスタマーズセンター

本社〒182-0016 東京都調布市佐須町1-6-4
Tel(0424)99-3180 Fax(0424)99-33191
東北CC〒023-0023 岩手県奥州市水沢区八反町81-1
Tel(0197)25-2725 Fax(0197)25-2790
関東CC〒182-0016 東京都調布市佐須町1-6-4 2F
Tel(0424)80-4641 Fax(0424)80-4656
中部CC〒452-0961 愛知県西春日井郡春日町
大字落合字宮重町521
Tel(052)400-1234 Fax(052)400-9216
北陸CC〒920-0027 石川県金沢市駅西新町3-4-25
BM-111
Tel(076)224-8805 Fax(076)224-8806
近畿CC〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-17-18
Tel(06)6339-7124 Fax(06)6339-7136
中四国CC〒720-2419 広島県福山市加茂町上加茂290-1
Tel(084)972-3880 Fax(084)972-2380
四国CC〒794-0804 愛媛県今治市祇園町2-3-52
Tel(084)972-3880 Fax(0898)25-0334
九州CC〒839-0811 福岡県久留米市山川神代1-8-22
Tel(0942)44-1835 Fax(0942)44-9729